

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-027347

(43)Date of publication of application : 30.01.1996

(51)Int.Cl.

C08L 33/06

C08F 30/08

C08L 43/04

(21)Application number : 06-164044

(71)Applicant : NISSHIN CHEM IND CO LTD

(22)Date of filing : 15.07.1994

(72)Inventor : OHATA HIROYUKI
SAGA HIROSHI

(54) ALKOXYSILYL-CONTAINING ACRYLIC EMULSION

(57)Abstract:

PURPOSE: To obtain an acrylic emulsion improved in long-term storage stability, durability, weathering resistance, etc., by emulsion-polymerizing a specified core-forming monomer component with a shell-forming monomer component in the presence of a reactive surfactant.

CONSTITUTION: A mixture (A) containing 50-99wt.% alkyl (meth)acrylate with a 1-18C alkyl group, 1-20wt.% organosilicon compound represented by the formula (wherein R¹ is a monovalent organic group having a polymerizable double bond; R² is a 1-4C alkyl; X is a 1-4C alkoxy; and (n) is 2 or 3) and 0-30wt.% comonomers is polymerized in water at 10-90° C and at a pH of 6.5-7.5 to obtain a core polymer emulsion. A mixture (B) comprising 70-100wt.% alkyl (meth)acrylate with a 1-18C alkyl group and 0-30wt.% comonomers is added to the above emulsion in amounts to give component (A)/component (B) weight ratio of 50/50 to 90/10, and the resulting mixture is emulsion-polymerized in the presence of a reactive surfactant.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 24.04.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 07.04.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-27347

(43) 公開日 平成8年(1996)1月30日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
C 0 8 L 33/06	L J A			
C 0 8 F 30/08	M N U			
C 0 8 L 43/04	L K A			

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平6-164044	(71) 出願人	000226666 日信化学工業株式会社 福井県武生市北府 2 丁目17番33号
(22) 出願日	平成6年(1994)7月15日	(72) 発明者	大畠 宏之 福井県武生市北府 2 丁目17番33号 日信化学工業株式会社内
		(72) 発明者	嵯峨 博 福井県武生市北府 2 丁目17番33号 日信化学工業株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 山本 亮一 (外1名)

(54) 【発明の名称】 アルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョン

(57) 【要約】 (修正有)

【目的】 長期貯蔵安定性と造膜性が良好で、塗料等のベースエマルジョンとして有用なアルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョンを提供する。

【構成】 コア部には (a) (メタ) アクリル酸アルキルエステル、(b) アルコキシシリル基含有有機けい素化合物ならびに (c) 上記 (a) 及び (b) と共重合可能な単量体からなる単量体成分(I) を、シェル部には (A) (メタ) アクリル酸アルキルエステル及び (B) 上記 (A) と共重合可能な単量体からなる単量体成分(II) を、その比率が (I)/(II)=50/50~90/10 (重量比) になるように用い、反応性界面活性剤を使用して乳化重合してなるコア・シェル型アルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョン。

1

2

【特許請求の範囲】

* (シェル) とで組成の異なるコア・シェル型エマルジョ

【請求項1】 エマルジョン粒子の芯(コア)と外殻 * ンであって、そのコア部には

(a) 炭素数1~18個のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸アルキルエ
テル 50~99重量%(b) 式 $R^1R^2C_{(3-n)}SiX_n$ (式中、 R^1 は重合性二重結合を有する1価有機基、 R^2
は炭素数1~4のアルキル基、Xは炭素数1~4のアルコキシル基、nは
2又は3)で示される有機けい素化合物 1~20重量%

(c) 上記(a)及び(b)と共重合可能な単量体 0~30重量%

[ただし、(a)、(b)及び(c)の合計は100重量%]

からなる単量体成分(I)を、シェル部には 10

(A) 炭素数1~18個のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸アルキルエ
テル 70~100重量%

(B) 上記(A)と共重合可能な単量体 0~30重量%

[ただし、(A)及び(B)の合計は100重量%]

からなる単量体成分(II)を、その比率が(I)/(I
I) = 50/50~90/10 (重量比) になるように用い、反
応性界面活性剤を使用して乳化重合してなるコア・シェ
ル型アルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、加水分解性のアルコキ
シリル基を有するアクリル系エマルジョンであって、
長期の貯蔵安定性が良好で、かつエマルジョンから形成
される皮膜の耐久性、耐候性等が優れ、塗料用、シーラ
ント用などのベースエマルジョンとして有用とされるア
クリル系エマルジョンに関するものである。

【0002】

【従来の技術】塗料用等のコーティング剤には耐水性、
耐酸性、耐アルカリ性、耐湿性をはじめ耐久性や耐候性
が求められており、その対応策のひとつとして溶液型の
加水分解性シリル基含有室温硬化性ポリマーを用いるこ
とがよく知られている。このポリマーとしては、特公昭
63-60046号公報に例示されている、1分子中に少なくと
も2個の加水分解性基を有するシリル基を導入した数平
均分子量 300~30,000の溶液重合によるポリマーなどが
あげられる。しかし近年、低公害、省資源、安全衛生の
面から、これらのコーティング剤にも水系であるエマル
ジョンタイプが求められているが、加水分解性シリル基
が水系において加水分解及び縮合しやすく、貯蔵安定性
の良いエマルジョンタイプの製造が困難であった。【0003】特開平 5-25354号公報には、貯蔵安定性向
上のため加水分解性シリル基とアミンイミド基を各々1
分子中に少なくとも1個有する樹脂を含有する反応型樹
脂エマルジョンが提案されているが、その製造には、有
機溶媒中で溶液重合したのち溶液をトッピングして残っ
た樹脂を乳化する方法、または溶液のまま水を加えて※(a) 炭素数1~18個のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸アルキルエ
テル 50~99重量%(b) 式 $R^1R^2C_{(3-n)}SiX_n$ (式中、 R^1 は重合性二重結合を有する1価有機基、 R^2
は炭素数1~4のアルキル基、Xは炭素数1~4のアルコキシル基、nは※乳化したあとトッピングする方法がとられており、工程
が複雑で経済的不利はまぬがれない。さらに貯蔵中の加
水分解性シリル基の縮合反応の防止が十分できず、長期
間保存した場合にエマルジョンのゲル化は見られないも
のの、エマルジョン粒子内の加水分解性シリル基の縮合
による粒子内架橋が進み、エマルジョンの造膜性が悪く
なり、室温下で良好な皮膜を形成するのが難しくなると
いう問題点があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】前記のような状況か
ら、本発明は、アルコキシシリル基による粒子内架橋を
著しく減少させることにより長期貯蔵安定性と造膜性が
良好で、かつ形成される皮膜の耐久性に優れたアルコキ
シリル基含有アクリル系エマルジョンを提供しようとし
てなされたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明者らは前記の課題
を解決するため鋭意検討の結果、エマルジョン粒子の芯
(コア)部を形成するポリマーの原料単量体中にアルコ
キシシリル基を含有する単量体を添加し、外殻(シェ
ル)部を形成するポリマーの原料単量体中にはアルコキ
シリル基を含有する単量体を添加しないで、反応性界
面活性剤を用いて乳化重合した、特定のコア・シェル型
アルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョンが課題
解決の可能性をもつことを見出し、さらにコアとシェル
の各部分の単量体及び反応性界面活性剤の種類、量につ
いて試験を行い本発明に至った。【0006】本発明は前記の課題を解決したものであ
り、本発明は、エマルジョン粒子の芯(コア)と外殻
(シェル)とで組成の異なるコア・シェル型エマルジョ
ンであって、そのコア部には

3	2又は3)で示される有機けい素化合物	4	1~20重量%
	(c)上記(a)及び(b)と共重合可能な単量体		0~30重量%
	[ただし、(a)、(b)及び(c)の合計は100重量%]		

からなる単量体成分(I)を、シェル部には

(A)炭素数1~18個のアルキル基を有する(メタ)アクリル酸アルキルエ	
テル	70~100重量%
(B)上記(A)と共重合可能な単量体	0~30重量%

[ただし、(A)及び(B)の合計は100重量%]

からなる単量体成分(II)を、その比率が(I)/(I+II)=50/50~90/10(重量比)になるように用い、反応性界面活性剤を使用して乳化重合してなるコア・シェル型アルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョン、を要旨とするものである。以下に本発明についてさらに詳しく説明する。

【0007】本発明における(a)及び(A)成分である(メタ)アクリル酸アルキルエステルはアクリル系ポリマーの骨格を形成するための主成分単量体であり、炭素数1~18個の直鎖状もしくは分枝状アルキル基をもつアルコール又は環式アルキル基をもつアルコールとアクリル酸又はメタクリル酸とのエステル化合物である。この単量体としては例えば、アクリル酸又はメタクリル酸のメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、オクチル、2-エチルヘキシル、ラウリル、ステアリル又はシクロヘキシルエステルなどをあげることができ、これらの群から選ばれる1種又は2種以上の混合物を使用することができる。

【0008】(b)成分の式 $R^1R^2(C_3H_5)_nSiX_n$ (式中の R^1 、 R^2 、 X 、 n は前記に同じ)で示される有機けい素化合物は、アルコキシシリル基をアクリル系ポリマーへ側鎖として導入するための単量体である。この単量体としては、ビニルトリメトキシシラン、ビニルトリエトキシシラン、ビニルトリス(β -メトキシエトキシ)シラン、ビニルメチルジメトキシシラン、 γ -メタクリロキシプロピルメチルジメトキシシラン、 γ -メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン、 γ -アクリロキシプロピルトリメトキシシラン、 γ -アクリロキシプロピルメチルジメトキシシラン、 γ -メタクリロキシプロピルトリエトキシシラン、 γ -メタクリロキシプロピルメチルジエトキシシラン、 γ -メタクリロキシプロピルトリブトキシシランなどが例示される。これらの単量体の1種又は2種以上の混合物が、コア部を重合する際(b)成分として単量体成分(I)全量の1~20重量%用いられる。1重量%未満では形成された皮膜の架橋密度が低く耐水性等の耐久性及び耐候性が不十分であるし、また20重量%を超えると架橋密度が高すぎ、形成された皮膜がもろくなり、さらにはエマルジョンの貯蔵安定性も損なわれる。

【0009】(c)成分は(a)及び(b)成分と共重合可能な重合性単量体であり、(B)成分は(A)成分

と共重合可能な重合性単量体である。これらの単量体は必要に応じてエマルジョンの機械的安定性、形成された皮膜の耐水性、光沢、その他の機能性付与に用いられるが、本発明の目的を損わないため、(c)成分は単量体成分(I)全量の30重量%以下の使用量とし、(B)成分は単量体成分(II)全量の30重量%以下の使用量とする。

【0010】このような(c)成分又は(B)成分の単量体としては、アクリル酸、メタクリル酸、無水マレイン酸等のカルボキシル基又はその無水物含有単量体、2-ヒドロキシエチル(メタ)アクリレート、2-ヒドロキシプロピル(メタ)アクリレート等のヒドロキシル基含有単量体、(メタ)アクリルアミド、N-メチロール(メタ)アクリルアミド、N-メトキシメチル(メタ)アクリルアミド、N-ブトキシメチル(メタ)アクリルアミド、ダイアセトン(メタ)アクリルアミド等のアミド基含有単量体、ジメチルアミノエチル(メタ)アクリレート、ジエチルアミノエチル(メタ)アクリレート等のアミノ基含有単量体、メトキシエチル(メタ)アクリレート、ブトキシエチル(メタ)アクリレート等のアルコキシル基含有単量体、グリシジル(メタ)アクリレート、グリシジリアルルエーテル等のグリシジル基含有単量体、ジビニルベンゼン、アリル(メタ)アクリレート、エチレングリコールジ(メタ)アクリレート、ジエチレングリコールジ(メタ)アクリレート、トリメチロールプロパントリ(メタ)アクリレート等の1分子中にラジカル重合性不飽和基を2個以上有する単量体、酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル等のビニルエステル単量体、スチレン、ビニルトルエン、 α -メチルスチレン等の芳香族ビニル単量体、アクリロニトリル、メタクリロニトリル等のシアン化ビニル単量体、塩化ビニル、臭化ビニル等のハロゲン化ビニル単量体などが例示され、これらの中から1種又は2種以上の混合物が用いられる。

【0011】また、本発明のエマルジョンから形成される皮膜の耐水性等の耐久性を著しく向上させ、溶融重合品に近い性能を得るためには、界面活性剤(乳化剤)として反応性界面活性剤を使用するとよいことが分った。この反応性界面活性剤の例としては、

【0012】

【化1】

- 1)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{C} \text{---} \text{COOCH}_2 \text{---} \text{CCH}_2\text{SO}_3\text{M} \\ | \\ \text{OOCR}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1, \text{R}^2: \text{H}, \text{CH}_3, \text{C}_7 \sim 21 \text{ のアルキル, アルケニル基,}$
 $\text{M}: \text{アルカリ金属, アンモニウム基,}$
 (特開昭54-144317号公報参照)、
- 2)
$$\begin{array}{c} \text{R} \\ | \\ \text{COOCH}_2\text{CH}_2\text{OCC} = \text{CH}_2 \\ | \\ \text{COOCH}_2\text{CH}_2\text{SO}_3\text{M} \end{array}$$
 $\text{R}: \text{H}, \text{CH}_3, \text{C}_7 \sim 21 \text{ のアルキル, アルケニル基,}$
 $\text{M}: \text{アルカリ金属, アンモニウム基, アミン,}$
 (特開昭55-115419号公報参照)、
- 3)
$$\begin{array}{c} \text{R} \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCOO}(\text{AO})_n\text{SO}_3\text{M} \end{array}$$
 $\text{R}: \text{H}, \text{CH}_3, \text{A}: \text{アルキレン基, } n: 2 \text{ 以上の整数,}$
 $\text{M}: 1 \text{ 価, } 2 \text{ 価の陽イオン,}$
 (特開昭62-34947号公報参照)、
- 4)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCH}_2(\text{AO})_n\text{OOCCHSO}_3\text{M} \\ | \\ \text{R}^2\text{OOCCH}_2 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{H}, \text{CH}_3, \text{R}^2: \text{非置換炭基, 置換炭化水素基等,}$
 $\text{A}: \text{C}_2 \sim 4 \text{ のアルキレン基, 置換アルキレン基,}$
 $n: 0, \text{正数,}$
 (特公昭49-46291号公報参照)、
- 5)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \quad \text{OH} \\ | \quad | \\ \text{CH}_2 = \text{CCH}_2\text{OCH}_2\text{CHCH}_2\text{OOCCHSO}_3\text{M} \\ | \\ \text{R}^2(\text{AO})_n\text{OOCCH}_2 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{H}, \text{CH}_3, \text{R}^2: \text{非置換炭基, 置換炭化水素基, アミノ基等,}$
 $\text{A}: \text{C}_2 \sim 4 \text{ のアルキレン基, } n: 0 \sim 100, \text{M}: 1 \text{ 価, } 2 \text{ 価の陽イオン,}$
 (特開昭58-203960号公報参照)、
- 6)
$$\begin{array}{c} \text{CH} = \text{CHCH}_3 \\ | \\ \text{R}^1 \text{---} \text{C}_6\text{H}_4 \text{---} \text{O} \text{---} (\text{AO})_n\text{SO}_3\text{M} \\ | \\ \text{R}^2 \quad \text{R}^3 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{C}_6 \sim 18 \text{ のアルキル基等, } \text{R}^2: \text{H}, \text{C}_6 \sim 18 \text{ のアルキル基等,}$
 $\text{R}^3: \text{H}, \text{プロピル基, A}: \text{C}_2 \sim 4 \text{ のアルキレン基, 置換アルキレン基, M}: \text{アルカリ金属等, } n: 1 \sim 200, \text{}$
 (特開平4-53802号公報参照)、
- 7)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCH}_2\text{OCH}_2 \\ | \\ \text{CHO}(\text{AO})_L\text{SO}_3\text{M} \\ | \\ \text{CH}_2\text{O}(\text{AO})_m\text{R}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{H}, \text{CH}_3, \text{R}^2: \text{C}_6 \sim 24 \text{ の炭化水素基等,}$
 $\text{A}: \text{C}_2 \sim 4 \text{ のアルキレン基, M}: \text{H, アルカリ金属, アルカリ土類金属等,}$
 $\text{L}: 0 \sim 20, \text{m}: 0 \sim 50, \text{}$
 (特開昭62-104802号公報参照)、
- 8)
$$\begin{array}{c} \text{OH} \\ | \\ \text{CHCOOCH}_2\text{CHCH}_2\text{SO}_3\text{M} \\ || \\ \text{CHCOOR} \end{array}$$
 $\text{R}: \text{C}_6 \sim 22 \text{ の炭化水素基,}$
 $\text{M}: \text{アルカリ金属, アンモニウム基,}$
 (特開昭49-40388号公報参照)、
- 9)
$$\begin{array}{c} \text{OH} \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCOOCH}_2\text{CHCH}_2\text{SO}_3\text{M} \\ | \\ \text{CH}_2\text{COOR} \end{array}$$
 $\text{R}: \text{C}_6 \sim 22 \text{ の炭化水素基,}$
 $\text{M}: \text{アルカリ金属, アンモニウム基,}$
 (特開昭49-40388号公報参照)、
- 10)
$$\begin{array}{c} \text{CHCOO}(\text{AO})_m\text{R} \\ || \\ \text{CHCOOM} \end{array}$$
 $\text{R}: \text{アルキル, アルキルフェニル, A}: \text{エチレン, M}: \text{アンモニウム, アミン,}$
 $\text{アルカリ金属, m}: 9, 12, 14, 28 \text{ (実施例),}$
 (特開昭52-134658号公報参照)

等のアニオン性反応性界面活性剤、及び

【化3】

【0014】

- 11)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCO}(\text{OCH}_2\text{CH}_2)_n\text{OR}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{H}, \text{CH}_3, \text{R}^2: \text{H}, \text{CH}_3, -\text{C}_6\text{H}_4-(\text{CH}_2)_m-\text{H},$
 $n: 4 \sim 30,$
 (特開昭53-126093 号公報参照)、
- 12)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \quad \text{CH}_3 \\ | \quad | \\ \text{CH}_2 = \text{CCOO}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_x(\text{CHCH}_2\text{O})_y(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_z\text{R}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1, \text{R}^2: \text{H}, \text{CH}_3, x: 0 \sim 100,$
 $y: 0 \sim 100, z: 0 \sim 100,$
 $1 \leq x+y+z \leq 100,$
 (特開昭56-28208号公報参照)、
- 13)
$$\begin{array}{c} \text{CH}=\text{CHCH}_3 \\ | \\ \text{R}^1 \text{---} \text{C}_6\text{H}_3 \text{---} \text{O}-(\text{AO})_n\text{H} \\ | \\ \text{R}^2 \quad \text{R}^3 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{C}_{6 \sim 18}\text{のアルキル基等}, \text{R}^2: \text{H}, \text{C}_{6 \sim 18}\text{のアルキル基等},$
 $\text{R}^3: \text{H}, \text{フェニル基}, \text{A: C}_{2 \sim 4}\text{のアルキレン基}, \text{置換}$
 $\text{アルキレン基}, n: 1 \sim 200,$
 (特開平4-50204 号公報参照)、
- 14)
$$\begin{array}{c} \text{R}^1 \\ | \\ \text{CH}_2 = \text{CCH}_2\text{OCH}_2 \\ | \\ \text{CHO}(\text{AO})_L\text{H} \\ | \\ \text{CH}_2\text{O}(\text{AO})_m\text{R}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1: \text{H}, \text{CH}_3,$
 $\text{R}^2: \text{C}_{6 \sim 24}\text{の炭化水素基}, \text{アシル基},$
 $\text{A: C}_{2 \sim 4}\text{のアルキレン基},$
 $L: 0 \sim 100, m: 0 \sim 50,$
 (特開昭62-104802 号公報参照)、
- 15)
$$\begin{array}{c} \text{CH}_2 = \text{CCOO}(\text{A}^1\text{O})_m\text{R}^1 \\ | \\ (\text{CH}_2)_L\text{COO}(\text{A}^2\text{O})_n\text{R}^2 \end{array}$$
 $\text{R}^1, \text{R}^2: \text{H}, \text{C}_{1 \sim 36}\text{の炭化水素基}, \text{アシル基},$
 $\text{A}^1, \text{A}^2: \text{C}_{2 \sim 4}\text{のアルキレン基}, \text{置換アルキレン基},$
 $L: 1, 2, m, n: 0, \text{正数}, m+n \geq 3,$
 $\text{R}^1, \text{R}^2\text{がいずれもHの場合}, m, n \geq 1,$
 (特開昭50-98484号公報参照)

等の非イオン性反応性界面活性剤、あるいは第4級アンモニウム塩や第3級アミン塩と重合性基を含むカチオン性反応性界面活性剤などが挙げられる。

【0015】この反応性界面活性剤は1種のみ用いても2種以上を併用してもよいが、その量が少なすぎると製造したエマルジョンに凝塊物が多く発生するようになるし、得られる皮膜も良好な物性を示さないようになる。また、多すぎる場合にもポリマーの粒径が細くなってエマルジョンの粘度が上がりすぎるし、皮膜の耐水性も悪くなってくる。したがって、この反応性界面活性剤の使用量は全単量体の0.5～15重量%が好ましく、特に1～7重量%が好ましい。

【0016】また、本発明の目的を損なわない限りにおいて、この反応性界面活性剤と組み合わせて通常の乳化重合に用いられる非反応性界面活性剤を使用することが可能であり、界面活性剤全量の30重量%以下の範囲で1種又は2種以上を用いることができる場合がある。これらの非反応性界面活性剤としてはアルキル又はアルキルアリル硫酸塩、アルキル又はアルキルアリルスルホン酸塩、ジアルキルスルホコハク酸塩等のアニオン性界面活性剤、アルキルトリメチルアンモニウムクロライド、アルキルベンジルアンモニウムクロライド等のカチオン性界面活性剤、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンカルボン酸エステル等のノニオン性界面活性剤などが例示される。

【0017】本発明で使用するラジカル重合開始剤としては過硫酸カリウム、過硫酸アンモニウム等の過硫酸

塩、過酸化水素水、t-ブチルハイドロパーオキシド、アゾビスアミジノプロパンの塩酸塩等の水溶性タイプ、ベンゾイルパーオキシド、キュメンハイドロパーオキシド、ジブチルパーオキシド、ジイソプロピルパーオキシジカーボネート、クミルパーオキシネオデカノエート、クミルパーオキシオクトエート、アゾビスイソブチロニトリル等の油溶性タイプなどが例示される。さらに必要に応じて、酸性亜硫酸ナトリウム、ロンガリット、アスコルビン酸等の還元剤を併用したレドックス系も使用することができる。この重合開始剤の使用量は単量体に対して通常は0.1～10重量%とすればよいが、好ましくは0.5～5重量%である。

【0018】本発明のアルコキシシリル基含有コア・シェル型アクリル系エマルジョンを製造するには、まず上記した(a)、(b)及び(c)の各種単量体を混合し、これに界面活性剤、重合開始剤等を加えて水系でコア部を形成するエマルジョンを重合する。この場合一括して仕込み重合する方法、各成分を連続供給しながら重合する方法などの各種の方法を適用できる。コア部重合の際、アルコキシシリル基の加水分解や縮合を抑えるため、pH緩衝剤を使用して、重合中のpHを6.5～7.5におさえるのが好ましい。重合は通常10～90℃の温度で行われる。コア部重合においては反応性界面活性剤がほとんど完全に重合してコア部ポリマーエマルジョンの水相中に実質的に残存していないことが肝要であり、もし残存しておれば次段階のシェル部重合の際、シェル部モノマーによる新粒子が生成する可能性があり本発明の効果を減殺する。次にこの系へさらに重合開始剤と上記した

c. 耐水性

○：異常なし、△：やや白化、×：白化、ブリストー発生

10 攪拌機、コンデンサー、温度計及び窒素ガス導入口を備えた重合容器に、脱イオン水 1,240部及びpH緩衝剤として炭酸ソーダ0.57部、ホウ酸5.63部を仕込み、攪拌しながら60℃に昇温したのち窒素置換した。これにロンガリット 2.1部、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウムの1%水溶液0.15部、硫酸第1鉄の1%水溶液0.05部を添加すると同時に、メタクリル酸メチル 294部、アクリル酸ブチル 378部、スチレン84部、γ-メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン84部、t-ブチルヒドロパーオキシド（純分69%） 2.5部、反応性界面活性剤アクアロンRN-10〔第一工業製薬（株）製、商品名〕 16.8部及びアクアロンHS-10〔第一工業製薬（株）製、商品名〕 8.4部の混合液 867.7部を 2.5時間かけて均一に添加し、さらに60℃にて1時間反応させてコアエマルジョンを得た。これに同温度にてロンガリット 0.9部を添加し、同時にメタクリル酸メチル 151部、アクリル酸ブチル 173部、スチレン36部、反応性界面活性剤アクアロンRN-10（前出） 7.2部、アクアロンHS-10（前出） 3.6部及びt-ブチルヒドロパーオキシド（純分69%） 1.1部の混合液 371.9部を1時間かけて均一に添加し、さらに60℃にて1時間反応させて重合を終了した。得られたコアシェル型エマルジョンの固形分濃度は49.7%、pH 7.1であった。重合に使用した反応性界面活性剤は、アクアロンRN-10が先に例示したうちの13）に、アクアロンHS-10が6）にそれぞれ属するものである。上記で得られたエマルジョンの特性は表1に示すとおりであった。

攪拌機、コンデンサー、温度計及び窒素ガス導入口を備えた重合容器に、脱イオン水 640部及びpH緩衝剤として炭酸ソーダ 0.57部、ホウ酸 5.63部を仕込み、攪拌しながら30℃に昇温したのち窒素置換した。これにL-アスコルビン酸 2.4部、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウムの1%水溶液 0.15部、硫酸第1鉄の1%水溶液 0.5部を添加すると同時に、メタクリル酸メチル 326部、アクリル酸ブチル 442部、スチレン96部、γ-メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン48部、γ-メタクリロキシプロピルメチルジメトキシシラン48部、t-ブチルヒドロパーオキシド（純分69%）2.9部、反応性界面活性剤エレミノールJS-2〔三洋化成工業（株）製、商品名〕24.6部、アクアロンRN-20〔第一工業製薬（株）

【実施例】本発明を実施例及び比較例に基づき具体的に説明するが、本発明は実施例に限定されるものではない。なお、例中の部及び％はそれぞれ重量部と重量％を示す。また、得られた各エマルジョンについて、製造直後及び室温で3ヶ月又は6ヶ月貯蔵した後の特性を下記の測定方法で評価した。

造膜しうる最低温度を理学工業社製最低造膜温度測定機で測定した。

エマルジョンの粘度変化あるいはゲル化の有無を観察し、下記によって示した。

製、商品名] 19.2部及び脱イオン水 480部の混合物 1,486.7部をホモキサーで乳化したものの内44.6部を加えてシード重合を行い、引続き残りの 1,442.1部を 2.5時間を要して均一に添加し、さらに30℃にて1時間反応させてコアエマルジョンを得た。これに同温度にてL-アスコルビン酸 0.6部を添加し、同時にメタクリル酸メチル91.2部、アクリル酸ブチル 120部、スチレン24部、アクリル酸 4.8部、 α -ブチルヒドロパーオキシド(純分69%) 0.7部、反応性界面活性剤エレミノールJS-2(前出) 6.2部、アクアロンRN-20(前出) 4.8部及び脱イオン水 120部の混合物 371.7部をホモキサーで乳化したものを1時間かけて均一に添加し、さらに30℃にて1時間反応させて重合を終了させ、10%アンモニア水で中和した。得られたコアシェル型エマルジョンの固形分濃度は49.4%、pH 7.0であった。重合に使用した反応性界面活性剤は、エレミノールJS-2が先に例示したうちの4)に、アクアロンRN-20が13)にそれぞれ属するものである。上記で得られたエマルジョンの特性は表1に示すとおりであった。

【0024】比較例1

攪拌機、コンデンサー、温度計及び窒素ガス導入口を備えた重合容器に、脱イオン水 640部を仕込み、攪拌しながら30℃に昇温したのち窒素置換した。これにL-アスコルビン酸3部、硫酸第1鉄の1%水溶液 0.5部を添加すると同時に、メタクリル酸メチル 417.2部、アクリル酸ブチル 562部、スチレン 120部、アクリル酸 4.8部、 γ -メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン48部、 γ -メタクリロキシプロピルメチルジメトキシシラン48部、 α -ブチルヒドロパーオキシド(純分69%) 3.6部、反応性界面活性剤エレミノールJS-2(前出) 30 0.8部、アクアロンRN-20(前出) 24部及び脱イオン水 600部の混合物 1,858.4部をホモキサーで乳化したものの内、44.2部を加えてシード重合を行い、引続き残りの 1,795.4部を 3.5時間かけて均一に添加し、さらに30℃にて1時間反応させて重合を終了させ10%アンモニア水で中和した。得られたエマルジョンの固形分濃度は49.0%、pH 7.1であった。上記で得られたエマルジョンの特性は表1に示すとおりであった。

【0025】比較例2

攪拌機、コンデンサー、温度計及び窒素ガス導入口を備えた重合容器に脱イオン水 1,240部を仕込み、攪拌しな

がら60℃に昇温したのち窒素置換した。これにロンガリット3部、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウムの1%水溶液0.15部、硫酸第1鉄の1%水溶液0.05部を添加すると同時に、メタクリル酸メチル 445部、アクリル酸ブチル 551部、スチレン 120部、 γ -メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン84部、 α -ブチルヒドロパーオキシド(純分69%) 3.6部、反応性界面活性剤アクアロンRN-10(前出) 24部、アクアロンHS-10(前出) 12部の混合液 1,239.6部を 3.5時間かけて均一に添加し、さらに60℃にて1時間反応させて重合を終了した。得られたエマルジョンの固形分濃度は49.5%、pH 6.1であった。上記で得られたエマルジョンの特性は表1に示すとおりであった。

【0026】比較例3

攪拌機、コンデンサー、温度計及び窒素ガス導入口を備えた重合容器に脱イオン水 1,240部及びpH緩衝剤として炭酸ソーダ0.57部、ホウ酸5.63部を仕込み、攪拌しながら60℃に昇温したのち窒素置換した。これにロンガリット 2.1部、エチレンジアミン四酢酸二ナトリウムの1%水溶液0.15部、硫酸第1鉄の1%水溶液0.05部を添加すると同時に、メタクリル酸メチル 294部、アクリル酸ブチル 378部、スチレン84部、 γ -メタクリロキシプロピルトリメトキシシラン84部、 α -ブチルヒドロパーオキシド(純分69%) 2.5部、非反応性界面活性剤ノイゲンEA-170[第一工業製薬(株)製、商品名] 16.8部及びエマルO[花王(株)製、商品名] 8.4部の混合液 867.7部を 2.5時間かけて均一に添加し、さらに60℃にて1時間反応させてコアエマルジョンを得た。これに同温度にてロンガリット 0.9部を添加し、同時にメタクリル酸メチル 151部、アクリル酸ブチル 173部、スチレン 36部、非反応性界面活性剤ノイゲンEA-170(前出) 7.2部、エマルO(前出) 3.6部及び α -ブチルヒドロパーオキシド(純分69%) 1.1部の混合液 371.9部を1時間かけて均一に添加し、さらに60℃にて1時間反応させて重合を終了した。得られたコアシェル型エマルジョンの固形分濃度は49.8%、pH 7.0であった。上記で得られたエマルジョンの特性は表1に示すとおりであった。

【0027】

【表1】

評価 項目 貯蔵 期間 例No.	エマルジョンの貯蔵安定性						皮膜の性能		
	最低造膜温度 (°C)			エマルジョンの状態			耐水性		
	製造直後	3ヶ月後	6ヶ月後	製造直後	3ヶ月後	6ヶ月後	製造直後	3ヶ月後	6ヶ月後
実施例1	15	17	19	○	○	○	○	○	○
〃 2	9	10	15	○	○	○	○	○	○
比較例1	21	測定不能	—	○	ゲル化	—	○	測定不能	—
〃 2	16	27	50以上	○	○	○	○	造膜不能	同左
〃 3	14	16	20	○	○	○	×	×	×

【0028】

【発明の効果】本発明のアルコキシシリル基含有アクリル系エマルジョンはアルコキシシリル基の加水分解や縮

合が大巾に抑えられるため長期の貯蔵安定性が良好であり、実用的に塗料、シーラント等のベースエマルジョンとして有用である。